

序章
はじめに

第1章
全体構想

第2章
地域別構想

第3章

推進体制

資料編

1 協働による計画推進

① 協働体制を構築する

持続可能な都市づくりを進めるに当たっては、市民、事業者、NPO^{*6}、大学、行政などの多様な主体がまちの抱える課題や目指すべき将来像などを共有し、それぞれの役割分担のもと、協働による都市づくりを継続していくことが必要です。

そのために、広報広聴の充実などによる市民の市政参画の促進や、地域やまちづくり活動団体への支援、地域コミュニティの主体となる自治会やまちづくり協議会との連携など、協働体制を構築します。

② 加東の未来を考え、実践する担い手を育む

多様な主体の協働のもと、都市づくりを継続していくためには、身近なところ・できるところから、地域資源の発見や地域課題の解決、地域の魅力創出に役立つ取組を実践し、地域に普及させていくことが重要です。

そのために、兵庫教育大学をはじめとした教育機関などと連携するとともに、外部の専門家のアドバイスを聞いたり、地域住民同士で意見交換を行うなど、様々な機会を通じ、地域で学び、地域の未来を考える機会を創出します。また、このような取組を実践する担い手の育成に努めます。

③ 庁内体制を確立する

都市計画に関わる施策は、都市計画分野だけでなく、他分野も含めた密接な関わりがあることから、庁内における横断的な組織の連携を図ることにより、都市計画に関する庁内体制を確立します。

2 市民を中心とした都市づくりの推進

少子高齢化・人口減少社会において、持続可能な都市づくりを進めていくためには、行政だけに頼らず、市民がそれぞれの地域の中で、主体となって都市づくりを進めていくことが不可欠です。

加東市都市計画マスタープランでは、主に以下の役割を市民に期待し、市民と行政が連携して都市づくりを推進します。

① 地域活動のリーダーとなる

本市では、里山における自然体験学習や地域の伝統行事・祭りなど、地域の資源を活かした地域活動が多面的に展開されています。このような地域活動をリードし、様々な人々を巻き込んでいく人材が必要であり、行政は、このような機会の創出に努めます。

② 地域の施設を守る

生活に身近な道路や公園などの既存施設は、実際に使われる地域住民にも管理に参画してもらえるよう、行政は、アドプト制度^{*3}など必要な取組を講じます。

③ 新たなつながりをつくる

地域のつながりの希薄化が懸念されていますが、一方で、SNS^{*5}などの新たなコミュニケーションツールが登場しています。こういったツールを活用しながら、多様な立場や年代の人々が、様々な活動を通じて新たなつながりを構築し、そのつながりから新たな価値を創出することが期待されます。そのため、行政は、まちづくり情報の発信を行い、多様で新しいネットワークづくりを促進します。

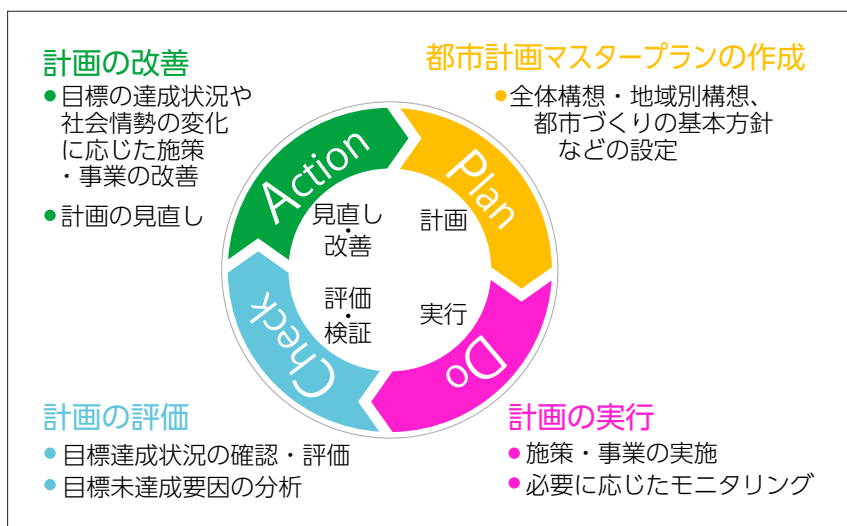
また、本市には外国人労働者が多く、これにより人口が維持されている側面があり、これらの人々を新たな担い手として、地域コミュニティの中で積極的に受け入れていくことが必要です。そのため、行政は、地域住民と外国人労働者など、異なる立場の人々が互いの文化や風習を理解しあえる場や機会を創出するとともに、新たな交流を促進します。

3 計画の評価

本市の将来都市像を実現していくためには、一定の期間が必要になることから、継続的な取組が必要となる一方、今後の社会情勢の変化にも柔軟に対応していく必要があります。

そのため、それらの変化に対応していくためにも、計画を実施し、その結果を検証・評価し、次の計画へ適切に反映していく PDCA サイクル^{*72}の考え方が必要です。

今後、都市計画事業^{*60}などの進捗状況や地域を取り巻く環境の変化、社会情勢の変化を踏まえて本計画の検証を行い、必要に応じて実現に向けた事業手法などの改善を行います。



PDCA サイクルのイメージ

序章
はじめに

第1章
全体構想

第2章
地域別構想

第3章
推進体制

資料編